

# UIFA JAPON NEWSLETTER



No. 104 Aug. 25, 2016

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

国際女性建築家会議 日本支部

## ■主な内容

UIFA JAPON 会長就任挨拶  
2016 年度通常総会報告  
記念講演「新しい建築のみかた」 斎藤公男先生の講演を聴き『各国の女性建築技術者のキャリア形成とライフスタイル』調査結果の報告  
被災地から  
岩泉町被災地支援のこれまでとこれから  
熊本地震レポート（熊本地震から3か月）  
熊本・大分地震の仮設住宅建設  
被災地通信 (14) 東日本大震災後5年にして思う



通常総会（写真：岩井）



斎藤研究室の模型（写真：正宗）

## UIFA JAPON 会長就任挨拶 稲垣 弘子 UIFA Japon President's Message INAGAKI Hiroko



稲垣弘子新会長

この度、UIFA JAPON の会長に就任致しました。

UIFA JAPON 設立当初からご尽力頂きました松川前会長、正宗前副会長には相談役としてご助言頂きながら活動を継承して行きます。

「建築関連領域を通しての国際交流、連携研究、社会貢献」を目指して、更に発展するよう、役員一同力を合わせて企画・運営に当たりますので、ご参加ご協力をよろしくお願い致します。

Thank you for providing me with this great opportunity to serve UIFA. I will continue our activities with the advice of former President Matsukawa and former Vice President Masamune, who are serving as Senior Advisors. They have both made great efforts and accomplishments since the establishment of UIFA Japon.

We all do our best to promote international interchange, cooperative studies, and contributions to society through architecture-related fields. We appreciate any advice or support you can provide.(KS)

## UIFA JAPON 2016 年度通常総会報告 井出 幸子 UIFA JAPON 2016 Annual Meeting IDE Sachiko

2016年6月18日（土）日本大学理工学部にて第24回 UIFA JAPON 通常総会が開催された。正会員76名のうち出席29名、委任状25名で定足数を確認し総会開催が成立。

### 被災地支援の新しい局面に向けて

活動報告で、松川会長より、熊本地震の復興を願いつつ、中越地震以来10年間、東日本大震災から5年経ち、現地との連携ができ、地元発の活動が始まってきたことなどから、区切りの時期を迎えたと考えていること、引き続き、熊本地震被災地への支援の形を検討して行きた

いこと、2015年に第18回UIFA世界大会がIAWAとの共催でアメリカ（ワシントンDC、バージニア工科大学）にて開催されたこと、また、「女性建築技術者のキャリア形成とライフスタイル」についてアンケート調査を行い、その報告をNEWSLETTER104号で掲載することなどが報告された。

### 新体制スタート

総務、事業、広報、災害復興見守りチーム、おもてなしチームから、各昨年度の活動結果、今年度の活動予定が報告され、また、会計担当より、昨年度の収入・支出、今年度予算について報告され、承認された。

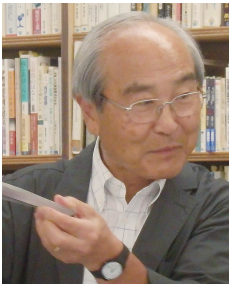
会則の変更として、新たに役職として、「名誉会長」及び「相談役」が加わった。次いで、役員が改選され、新会長に稲垣弘子、新副会長に井出幸子・岩井紘子、新理事に、井関まい子（総務）、小野全子（事業）、宮本伸子（広報）、また会計に栗山楊子に加わり、松川淳子と正宗量子が相談役に就任し、新体制となった。

UIFA Japon held its 24<sup>th</sup> annual general meeting on June 18, 2016, approving activity plans and making several changes, including the addition of new officer categories. In her activity report, President Junko Matsukawa summarized UIFA's many support activities following the 2004 Chuetsu (Niigata) Earthquake, which are nearly complete, and the types of support for those affected by the April 2016 earthquakes in Kumamoto. She also reported on the 18<sup>th</sup> UIFA World Congress that was held in the U.S. in 2015, and on the results of a survey on "career and lifestyle." (Please see pp. 3 - 10).

Reports were also given on plans for this year's activities by the Administration, Projects Committee, Editorial, Disaster Support and Hospitality, as well as Accounting. The members then approved this year's budget. A change to the UIFA bylaws, establishing the positions of honorary chairman and adviser, was also approved. Officers were then elected or re-elected, including new President Hiroko Inagaki, new Vice-Presidents Sachiko Ide and Hiroko Iwai, new Directors Maiko Iseki (general affairs), Masako Ono (projects), Nobuko Miyamoto (public relations) and Yoko Kuriyama (accounting). J. Matsukawa and K. Masamune were appointed as Senior Advisors.(KS)

「新しい建築のみかた」 斎藤公男先生の講演を聴き  
2016 Annual Meeting Commemorative Lecture: “Archi-Neering Design Guide”

村山 里歩  
MURAYAMA Riho



懇親会でも熱く語られる斎藤公男先生 (写真:宮本)

斎藤公男先生の講演を聴き、建築における構造に今までと違った印象をもった。構造というと建物の骨で、建築の表面に出ることのない技術、という感覚が強かった。しかし今回の講演で「建築は織物のように技術と芸術とが交差し出来ている」と表現され、「構造は最もシンプルな自然のアートである」と考える先生の話は、構造に前述のようなイメージを持つ私に新しい見方を与えてくれた。

### 古代に見られるアーキニリングデザイン (AND)

先生の講演会と同名の本の中で、次のように述べていらっしゃる。

「～、イメージ(求めるもの)とテクノロジー、あるいはアーキテクチャとエンジニアリング・デザインとの融合・触発・統合の様相を『アーキニリング・デザイン(AND)』と呼称し Art と Architecture と Engineering の関係を今一度とらえ直してみたい。～」

山間の断崖に広がるかつてのインカ帝国マチュピチュは、傾斜を利用し降った雨水を余すことなくゆっくりと下へ流すことで、山岳地に街ができ、美しい景観をつくりだしている。また古代ギリシャ・トロイヤ、アトレウスの宝庫のトロス式の円形墓は、持送りによるドーム型屋根で、これがミケナイ時代へ伝わりドーム型の屋根に雨水を集める構造となり、後のローマ帝国で、雨水を集める設備の水路にアーチ機構が使われ、石でありながら軽量の構造を可能にした。これら同じ目的を持つ構造は、それぞれの時代と風土の中で、美しい建築・街・景色を創りだしている。

### 東京オリンピックと AND

手元の配布資料に「ザハ・ハディド、あなたの“デザイン”がみたかった」の記事があった。ザハは設計・丹下健三、構造・坪井善勝の協働により生まれた名建築「国立代々木競技場」を深く研究していたようだ。1964年、都市に対し「開かれているが閉じた空間」をコンセプトに吊構造でつくられた競技場、今なお斬新である。イメージとテクノロジーが初期段階から融合・触発され、高いレベルのANDの建築だ。日本的な形だが新しい技術で表現され「世界に誇れる建築をつくらう」の気持ちが伝わる。

### 「建築の翼」

講演会の締めくくりに「～、2つのベクトルによって支えられた「建築の翼」に託されるもの。それは未来への飛翔である。」とあった。構造をもっと芸術として楽しむ目線で眺めてみれば、建築の楽しみ方が増えると感じた。

(日本大学理工学部建築学科4年)

Prof. Masao SAITO's lecture gave me the opportunity to view architectural structure in a new way. I used to perceive that building structure is similar to bones and technology that aren't visible. However, Saito believes that, "structure is like fabric woven by technology and art" and "structure is the simplest form of art."

### Archi-Neering Design (AND) as seen in ancient architecture

Saito referred to two ancient structures: rainwater drainage making use of slopes on a mountain ridge, developed by the Inca Empire of Machu Picchu; and the Roman Empire's structures for aqueducts, which made use of arches to support the weight of stones. The Roman structures arose from the technology of the dome-shaped tomb of the Treasury of Atreus in ancient Greece, and the development of dome-shaped roofs in Mycenae. These ancient structures are well-designed architecture, contributing to the beauty of the city and scenery in each unique culture.

### Tokyo Olympics & AND

One of Saito's reference materials was entitled "Zaha Hadid, I wish I Could See Your 'Design.'" Hadid studied the Yoyogi National Gymnasium by TANGE Kenzo with TSUBOI Yoshikatsu. The arenas, with their suspended structures, were built on the concept "open yet closed space." Since 1964 they have not lost their novelty. From the earliest planning stage, they integrated design and technology, and achieved a remarkable result.

### Wings of Architecture

Professor Saito closed his lecture by saying, "Let's fly to the future on the two architectural wings, engineering technology and art." I am now able to enjoy architecture more by appreciating structure as art.

Nihon University Architecture course undergraduates(KS)



南イタリアのアルベロベッロの町に建つトルツリ。古代ギリシャと同じ持送りによるドーム型屋根で、雨水を集める仕組みになっている。(写真:斎藤公男 1993 撮影)



懇親会会場 斎藤先生研究の構造模型が並ぶ

(写真:宮本)

## 第65回 海外交流の会のお知らせ

講師:伊礼 智氏

タイトル:「沖縄の外部空間に学ぶ」

日時:2016年11月26日(土)2:00pmより

場所:京橋 旭硝子ショールーム2階会議室

## 『各国の女性建築技術者のキャリア形成とライフスタイル』 調査結果の報告

UIFA JAPON では、女性建築技術者が、よりよい仕事（Decent work）を行い、より豊かなライフスタイルを築いてゆくために、各国の状況と比較する目的で、プロジェクトチームを組んで国際比較調査を実施してきた。このたびその結果をまとめることができたので、概要を報告する（調査は公益財団法人建築技術教育普及センターの調査・研究助成を得て実施したものである）。

全体の報告書『各国の女性建築技術者のキャリア形成とライフスタイル』はA4で115頁に及ぶもので、「第Ⅰ部 各国の女性建築技術者の背景と動向」「第Ⅱ部 国際女性建築家アンケートを通してみた“各国の女性建築技術者のキャリア形成とライフスタイル”」となっている。

ここでは、第Ⅱ部のアンケート結果の概要を中心に報告する。世界各国の女性の建築技術者を取り巻く環境の差異や、仕事に対する考え方の違いなどが見られて興味深いものになっていると思う。

会員の皆様には、2014年12月の予備調査及び2015年11月の本調査でのアンケートへのご協力を頂いたことに、深く感謝申し上げます。

2016年8月

プロジェクトチーム代表：松川淳子・中島明子（※）

（第Ⅰ部担当）石川彌榮子・宮本伸子・小池和子

（第Ⅱ部担当）稲垣弘子（※）・森田美紀

報告書の閲覧を希望される方は、上記※印担当までご連絡下さい（E-mail:uifa@liql.co.jp）

### 第Ⅰ部 各国の女性建築技術者の背景と動向（要点）

ここでは第Ⅱ部のアンケート結果の背景となる、日本と諸外国の女性労働や女性建築技術者の実態や動向について、データから分析したものである。対象は、主として建築教育を受けた専門職についている女性だが、国により建築技術者の定義は難しく、データにより対象はやや異なっている。

- ① 日本における建築分野の学生、大学教員及び民間・公共部門の建築職についている女性は増加し、建築士資格試験の合格率も高くなっている。しかし、建築技術者の半数近くを女性が占める国があるのに比べて、決して高くはない。日本の女性建築技術者養成の歴史の遅れにより、1985年に制定された男女雇用機会均等法以前の女性が少ないからである。近年は、若い層が増加しており、これらの女性が活躍できる環境が求められる。
- ② 日本の女性建築技術者の働く基盤をみると、未だに結婚・出産・子育て期にあたる30歳代の仕事からの撤退が多く、年齢階級別労働力率はM字型となっている点で、韓国等と共に他の欧州先進諸国との違いがある。
- ③ 女性建築技術者の仕事継続に関して、かつては建築現場

場の環境の悪さや力仕事で女性の進出を妨げる一因であったが、近年ではいずれの国でも相当改善されている。

- ④ 出産・育児・介護について、アジア諸国では出産・育児は親の支援により乗り越えるケースが多く、就労継続の課題としては介護問題が大きい。北欧では社会サービスの充実により介護の負担は殆どない。
- ⑤ 米国のAIA、英国のRIBAは、それぞれ組織を挙げて多様な人々の建築職への参画を目指すダイバーシティ政策の中で、女性の課題を積極的に取り上げて活動を展開している。
- ⑥ 建築職における女性組織について、韓国のKIFAの例からもUFAの役割は大きい。日本では男女雇用機会均等法制定前後に各地で女性建築技術者の会が、また日本建築士会連合会及び各都道府県連合会に女性委員会が設置され、2007年に日本建築学会に男女共同参画推進委員会が設置されている。

今日の日本における女性建築技術者は、諸外国の前向きで多様な女性建築技術者の潮流と合流しながら、量的にも質的にも発展する新たな時期にきていると言えよう。

### 第Ⅱ部 アンケートを通してみた 「各国女性建築技術者のキャリア形成とライフスタイル」

調査は、目的に沿って、日本会員を対象とした予備調査（2014年12月～15年1月）を踏まえ、英語版と日本語版のアンケート票を作成し、海外会員対象と日本会員対象に実施した。

**海外会員対象アンケート：**

- ① UIFA第18回世界大会（於米国2015年7月30日～8月4日）

実施…配布：73人、回収：37人（10カ国）、回収率：50.68%。

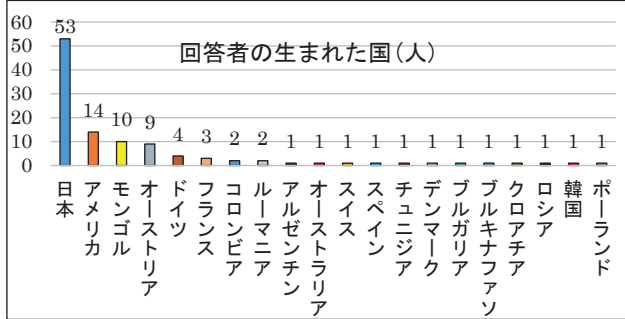
- ② 電子メールによる実施（2015年12月10日～2016年1月10日）…配布：124人（37カ国）、回収：21人（10カ国）、回収率：16.93%。

日本会員対象アンケート：

UIFA JAPON 会員(2015年11月3日～25日):配布:73人、  
回収:51人、回収率:69.86%。

総数：

配布:270人、回収:109人、回収率:40.37%。

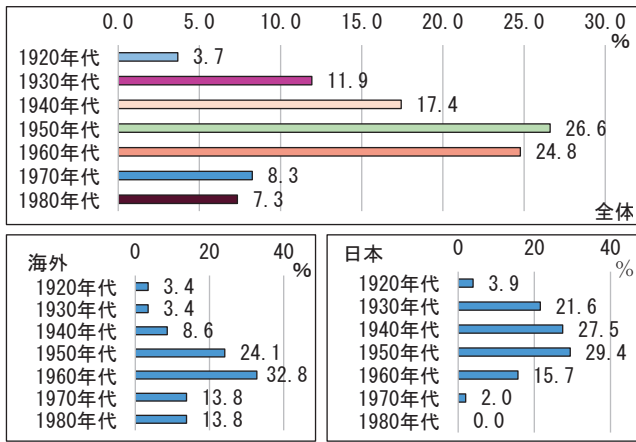


国別回答数にばらつきが大きいですが、日本と海外を比較すると以下の点で特徴がある。

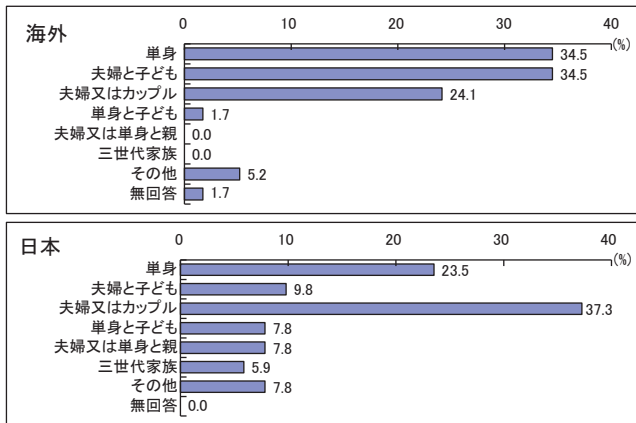
(1) プロフィール

- 回答者の平均年齢は 58.9 歳（日本 66.2 歳、海外 52.4 歳）  
1950 年代生まれが最も多い。単身または核家族が多く、  
現在子どもと同居していない家族が 6 割。
- 所属と立場については、デザイン系事務所勤務者が 5 割。  
構造・設備事務所勤務者が海外では 15.5%、日本は 2% である。

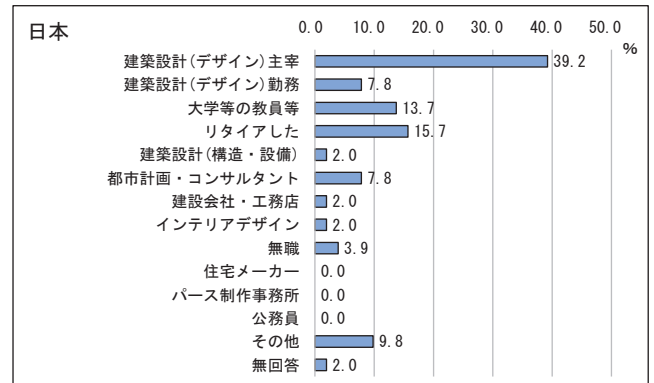
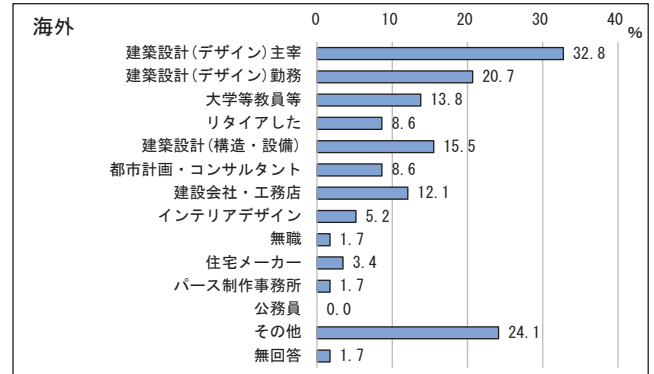
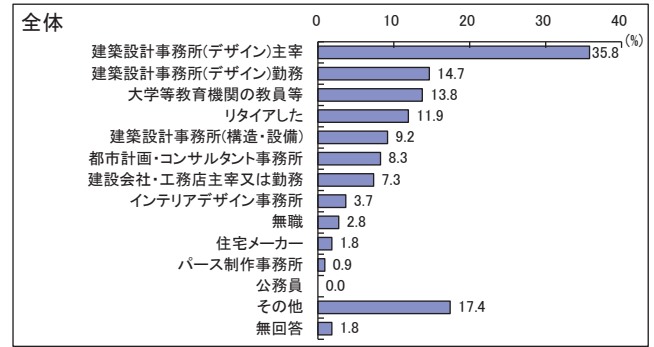
① 生れた年代



② 現在同居している家族構成



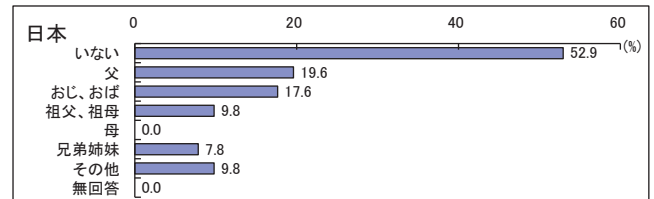
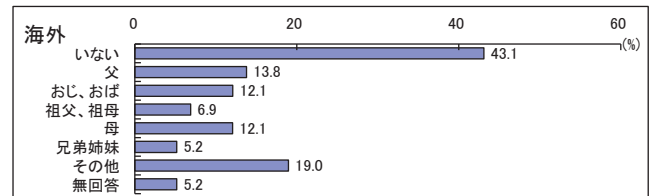
③ 所属と立場



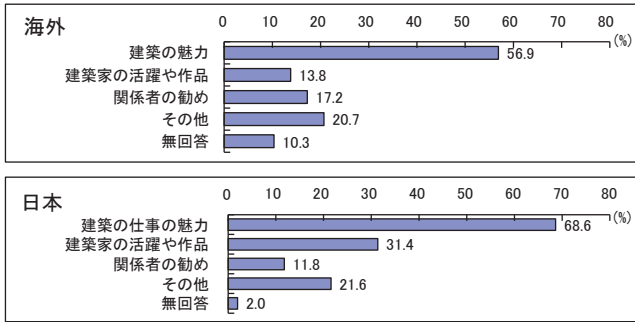
(2) 進路選択

- 家族に建築関係者がいるかどうかについては、約半数がいない。海外では母親と二世世代にわたる場合が 12% あるが、日本にはない。
- 建築関係等の領域を選んだ動機は「建築の仕事の魅力」が 6 割強。「家族や先生に勧められた」人の割合は海外の方が多い。

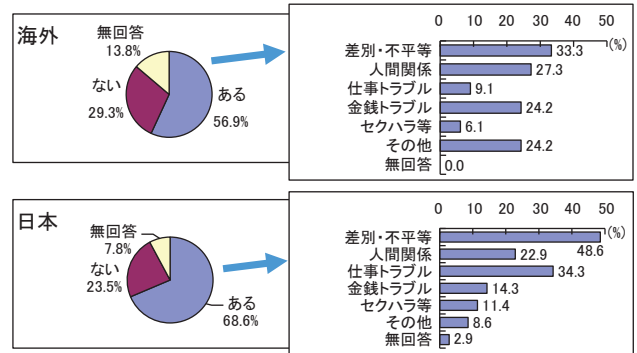
① 家族に建築関係者がいるか



② 建築関連領域を選んだ理由



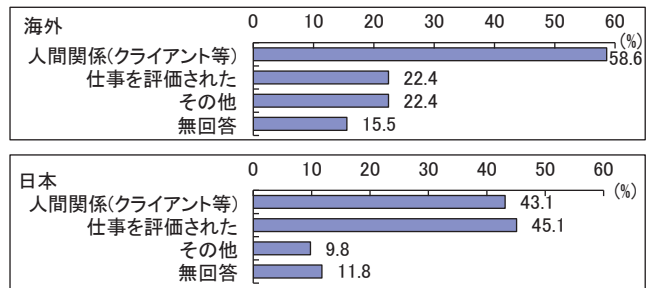
③ 仕事を続ける中で不愉快な思い出はあるか



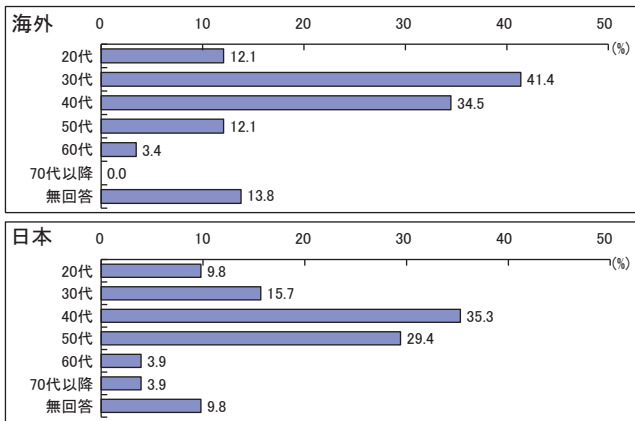
(3) 仕事について

- 「自分にとって大切な仕事」は海外では30代～40代の若い時期の規模の大きい仕事。日本では40代から50代の自分自身の頑張りや、他人から評価されたことが「大切な仕事」に繋がっている。
- 「不愉快な思い出」は、日本では7割弱あり多い。その半数は差別や不平等などで、仕事上のトラブルもある。海外では差別・不平等が3割、人間関係、金銭上のトラブルが続く。
- 「楽しかった思い出」は、海外では人間関係が6割弱、日本では、仕事を評価されたが最も多い。

④ 楽しかった思い出、うれしかった思い出



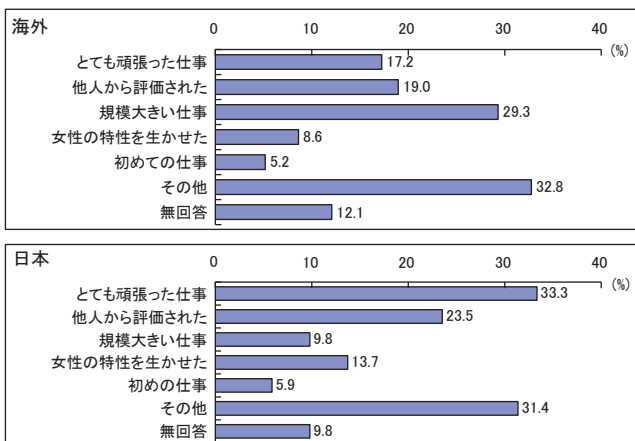
① 自分にとって最も大切な仕事は何歳頃のものか



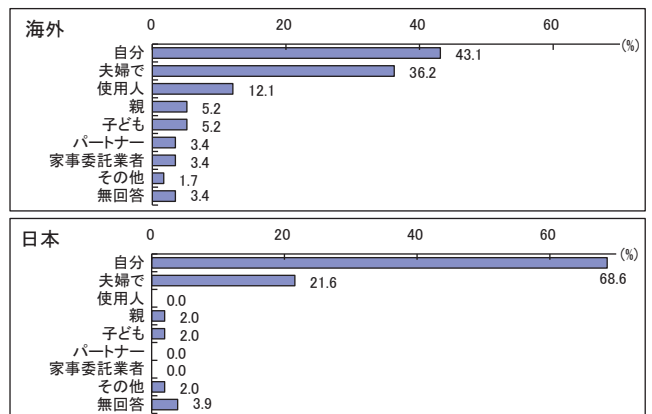
(4) 家事・子育て・介護

- 家事の担当者は「自分」が日本は7割弱、海外4割強。海外の方が夫婦で行う割合が高い。「家事委託業者」が日本では0だが、海外では少数だけがある。
- 子育ては、全体では保育園利用が8割。海外では多様な形態の保育園が活用されている。公立保育園利用は日本が4割弱で、海外より多い。仕事と子育ての両立では「仕事を減らして両立」を含め、8割が両立。「仕事を辞めた」は日本のみ。
- 介護については、「介護を必要とする家族がいる」は日本が6割強。海外は4割。高齢者施設利用は日本が多く、海外は自宅ケアも他の家族の担当多い。
- 子育てや介護が仕事に及ぼす影響については、日本の方が「プラス」の回答が多い。

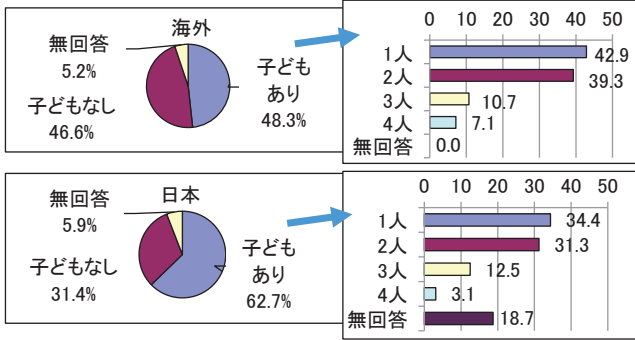
② 自分にとって最も大切な仕事の理由



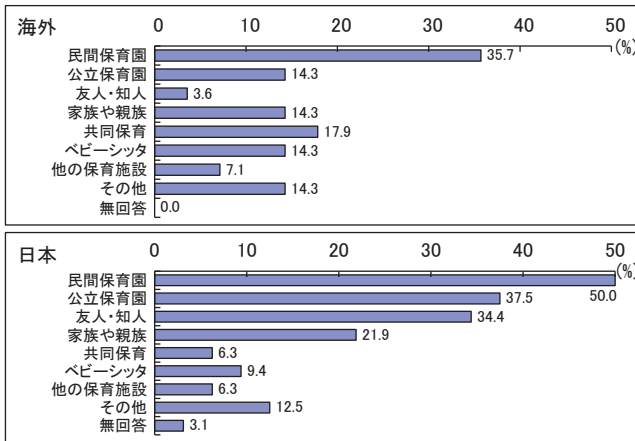
① 現在、家事は主に誰が担当しているか



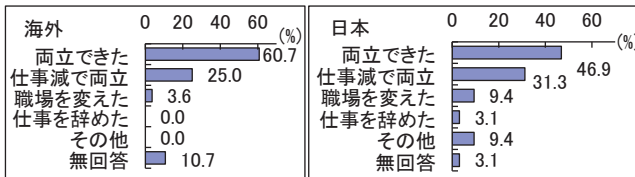
② 子どもがいますか、いましたか



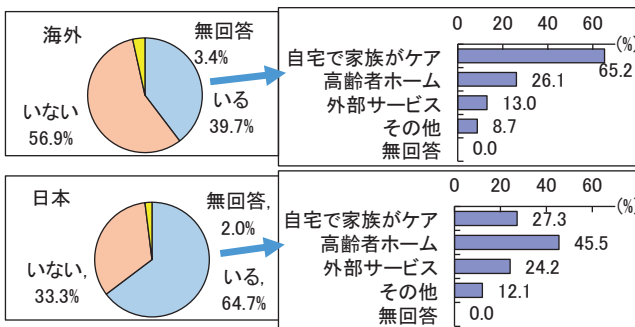
③ 子どもの保育について



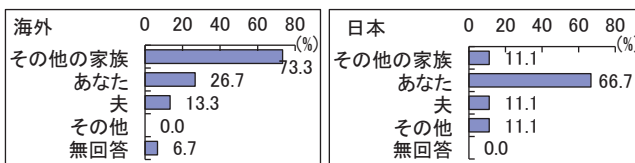
④ 子育てと仕事の両立



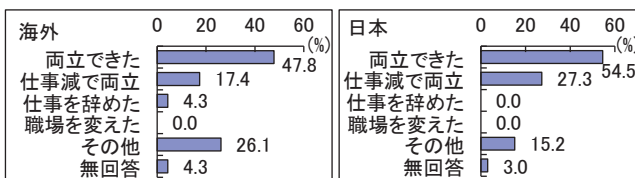
⑤ 介護を必要とする親や家族がいますか



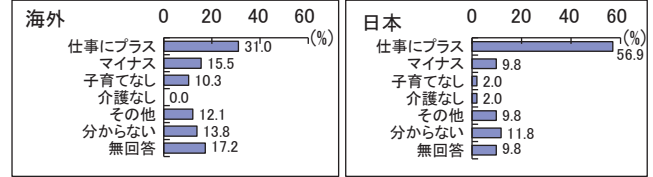
⑥ 自宅で家族がケアの場合主な担当者



⑦ 介護と仕事の両立は出来たか



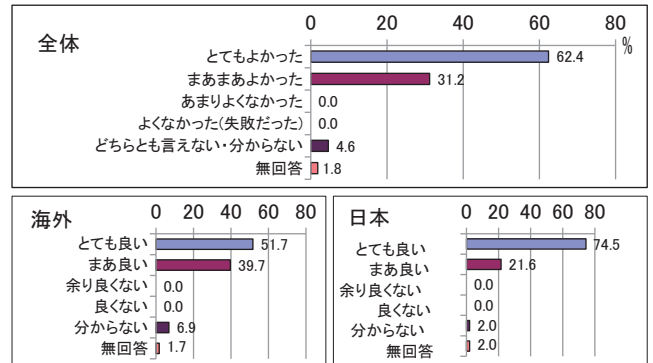
⑧ 子育てや介護は仕事にどのような影響があったか



(5) 建築分野の仕事を選択したことの自己評価

9割以上が「良かった」と思っている。「とても良かった」と答えるのは日本7割強、海外5割。良くなかった、あまり良くなかったは共に0。

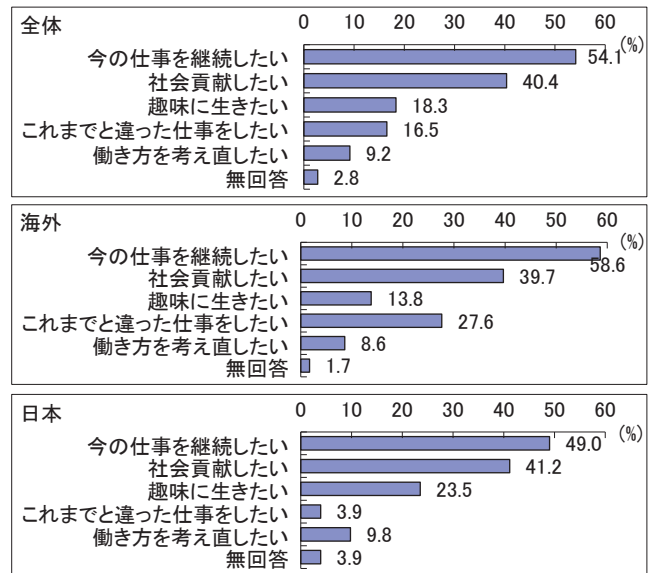
① 建築関連領域の仕事を選択したことについて



(6) 今後の仕事や活動

半数以上が「今の仕事を継続」。次に「社会貢献」。「これまでと違った仕事をしたい」人は海外で3割弱。日本はごく少ない。

① 今後の仕事や活動について



109人の回答者の7割強が自分の意志で建築関連領域の仕事を選び、海外では建築関係者が母親と二世帯等、建築界に女性が早くから進出していたことがわかる。5割強の人が育児や介護を経験しながら仕事と両立させ、9割強の人が建築関連領域の仕事を選んだことを良かったと思い、5割強の人が今の仕事を続けたいと思っている。

建築技術者における女性の増加は、よりよい住環境、都市環境の創造につながっている。女性技術者が志した仕事を続けられるよう、環境の整備が一層期待される。

## Report on the Past, Current and Future of Professional Women in Architecture

The UIFA Japon Research Team conducted a study on how women architects are able to create better work and lead better lifestyles, with cross-national comparative research. This research, "Career Development and Lifestyles of Women Architectural Engineers in Each Country," was supported by the Japan Architectural Education and Information Center.

Our research took about one year with the cooperation of UIFA and UIFA Japon members, and we compiled the report in May 2016.

The overall volume of the report is 115 A4-size pages, comprising two sections: "Part I : Background of Women Architectural Engineers in Each Country" and "Part II : Career Development and Lifestyle of Women Architectural Engineers seen through the Survey for International Women Architects."

Below is our summary of the results of the survey, focusing on Part II.

UIFA Japon sincerely appreciates the generous cooperation of UIFA members on the survey, which was conducted last year. (KS)

August 2016

Project Leaders : J. Matsukawa, A. Nakajima

Part I : N. Miyamoto, K. Koike, Y. Ishikawa

Part II : H. Inagaki, M. Morita

### Part I . Background of Women Architectural Engineers in Each Country (Key Findings)

In this part, we have examined the realities and trends of women engineers in Japan and overseas based on the collected data, which are the background information of Part II. However, as it is difficult to define the term of the architectural engineer depending on countries, the respondents may be somewhat different in each country.

- (1) In Japan, we found a sound increase in the number of women who are educating or working in the architectural field. However, the percentage of women in Japan was not so high, compared with other countries. This is because of the fact that there were a few women who worked in the architectural field before the enforcement of the Law for the Equal Employment Opportunity of Men and Women in 1985.
- (2) Looking at a labor force of women architectural engineers in Japan, a large number of women in 30s had to withdraw from their career due to marriage, childbirth or child-raising still now.
- (3) Bad working environments and heavy labor were factors adversely affecting the social progress

of women. However, these conditions are now significantly improving in every country.

- (4) The elder care was the most critical issue to continue their career in Asia, while women in Northern Europe had almost no burden on caring the elderly due to enhancement of social welfare services.
- (5) Each of AIA in the U.S. and RIBA in the U.K. has proactively engaged in activities focusing on women issues based on their diversity policy aiming to promote participations of various women into the architecture industry.
- (6) As for the woman architectural organization, UIFA has a major role as a network of women architects. In Japan, after the Law for the Equal Employment Opportunity of Men and Women was enforced, some women architect associations were established.

It seems that current women architectural engineers in Japan have approached to a new era for quantitative and qualitative development through joining to a forward-looking and diversified tide of women architecture engineers in many other countries.

### Part II . "Career Development and Lifestyle of Women Architectural Engineers in Each Country" seen through Questionnaire Survey

Based on the preliminary survey subject to members in Japan (Dec., 2014 to Jan., 2015), this survey was conducted by providing English version for overseas members, and Japanese version for members in Japan.

#### Questionnaires subject to overseas members:

1. Implemented at the 18th UIFA Congress (held in the U.S.A, from July 30 to Aug., 4, 2015):  
Distributed:73 / Collected: 37 (10 countries); Collection rate: 50.7%

2. Implemented via email (Dec., 10, 2015 to Jan., 10, 2016)

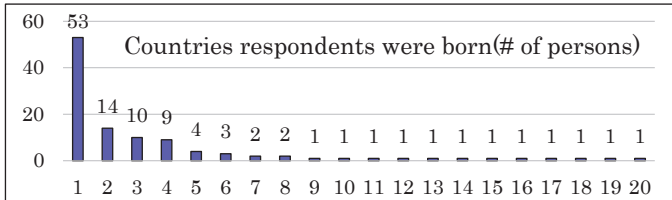
Distributed: 124 (37 countries) / Collected: 21 (10 countries); Collection rate: 16.9%

**Questionnaires subject to members in Japan:** UIFA JAPON members (from Nov., 3 to 25, 2015)

Distributed: 73 / Collected: 51; Collection rate: 69.9%。

**Total:** Distributed: 270 / collected: 109; Collection rate: 40.4% .

The number of responses by country varies widely. In the comparison between Japan and overseas, the following characteristics have been identified:

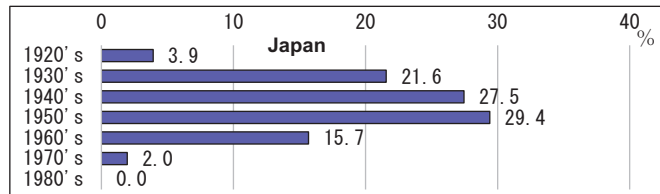
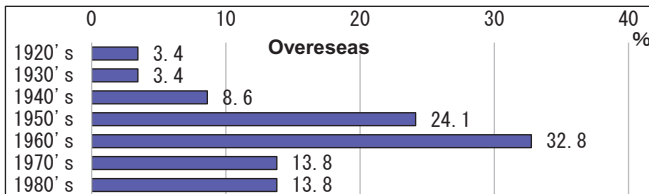


- 1: Japan, 2: U.S.A., 3: Mongolia, 4: Austria, 5: German, 6: France, 7: Colombia, 8: Romania, 9: Argentina, 10: Australia, 11: Switzerland, 12: Spain, 13: Tunis, 14: Denmark, 15: Bulgaria, 16: Bulukina Faso, 17: Croatia, 18: Russia, 19: Korea, 20: Poland

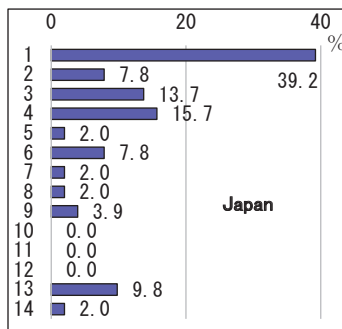
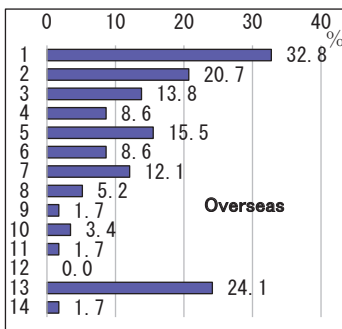
**(1)Profile of Respondents**

- Averaged age: 58.9 years old. (66.2 years old in Japan, 52.4 years old in overseas). The majority was people born in 1950's. Most respondents were single or members of nuclear families. The ratio of respondents living with no child was 60%.
- Workplaces and positions: 50% of respondents worked at architectural design offices. Employees of construction/architect offices were 15.5% in overseas, and 2.0% in Japan.

**a. The year you were born**



**b. Workplace and position**

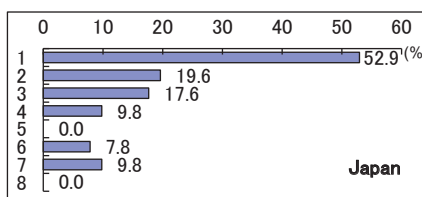
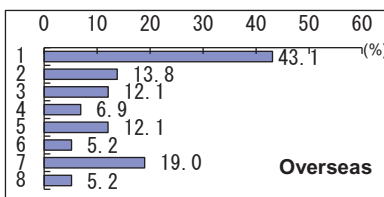


- 1: Architectural design office (owner)  
 2: Architectural design office (worker)  
 3: Faculty member of university/college, etc., 4: Retired  
 5: Architect office (structure/facility)  
 6: Urban planning/consulting office, 7: Construction company  
 8: Interior design office, 9: Unemployed, 10: Housing industry  
 11: Architectural rendering office, 12: Civil servant, 13: Other  
 14: No response

**(2)Career Selection**

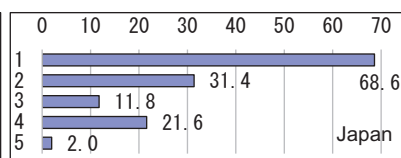
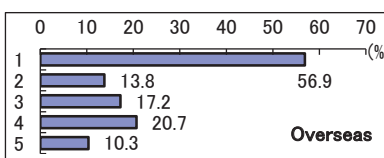
- Almost half of respondents did not have any family members or relatives being involved in the architectural field. In overseas, the ratio of respondents whose mother/daughter (two generations) was also working/worked in the architectural field was 12%, but no such case could find in Japan.
- The main motive to choose the architectural field was "Appeal of architectures themselves" (more than 60%). The proportion of respondents who responded as "Recommended by families or teachers" was higher in overseas.

**c. Do you have any family member(s) working/worked in the architecture industry?**



- 1: None, 2: Father, 3: Uncle(s)/Aunt(s)  
 4: Grandfather/Grandmother, 5: Mother  
 6: Brother(s)/Sister(s), 7: Other, 8: No response

**d. The reason why you chose the architectural field?**



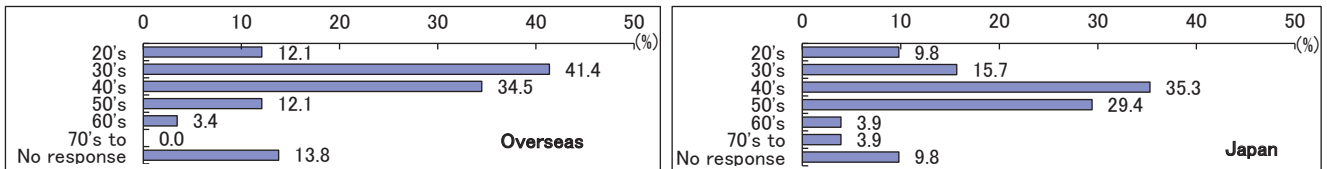
- 1: Appeal of architectures  
 2: Activities or works by architects  
 3: Recommendation by architecture related-persons  
 4: Other, 5: No response



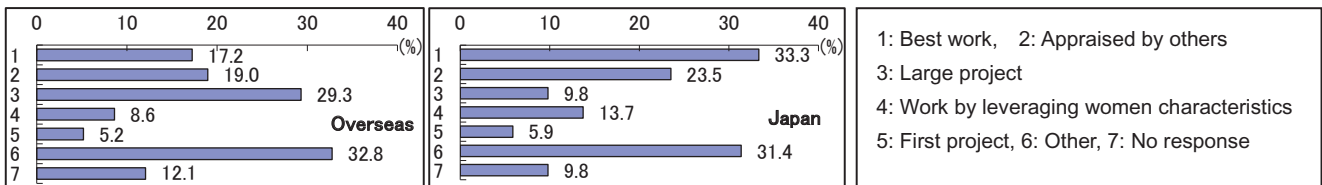
**(3) About your works**

- With regard to “the most valuable achievement,” most of overseas respondents selected “Large project” in which they were involved in younger age of 30’ s or 40’ s, while many Japanese respondents chose “Best work” accomplished by their own efforts in 40’s / 50’s or “Appraised by others.”
- Regarding “uncomfortable experiences,” almost 70 % of Japanese respondents answered as “Yes,” in which irrational discrimination and social inequalities against women and also business troubles were included. In overseas, the ratio of respondents who chose “Discrimination against women” was 30%, and “Trouble on human relationship” and “Money trouble” were followed.
- Regarding “Most pleasant memory,” “Good human relations” was chosen by about 60% of overseas respondents while “Appraised by others” was the most selected answer in Japan.

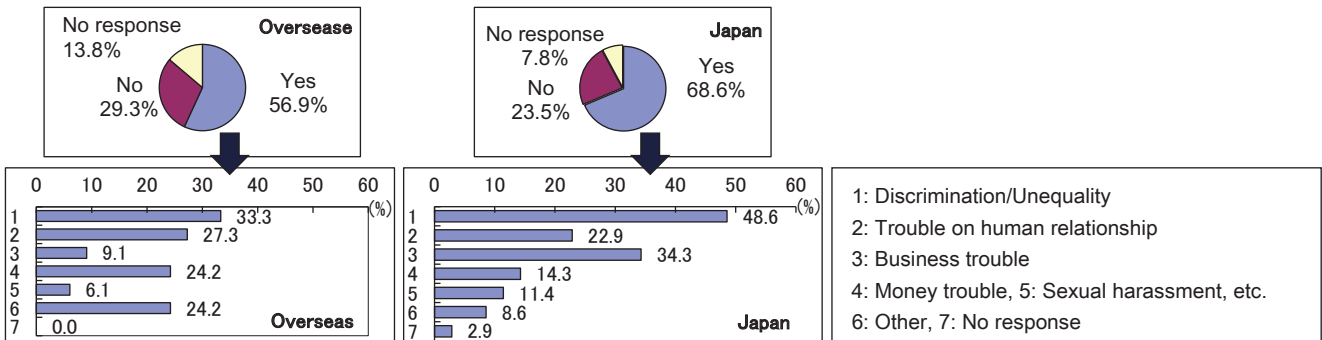
**e. What age did you do your most valuable achievement?**



**f. Why do you think it is the most valuable achievement?**



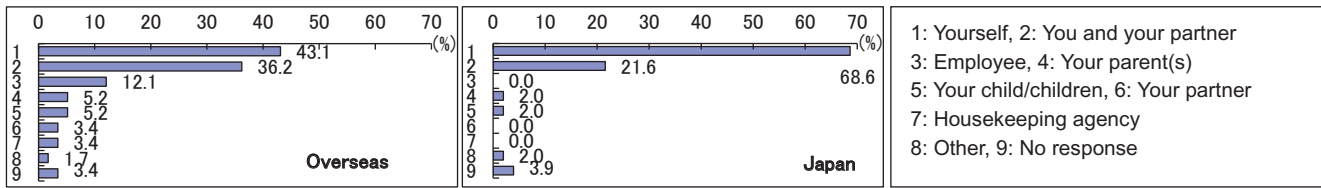
**g. Do you have any uncomfortable experience during your work? Please tell details.**



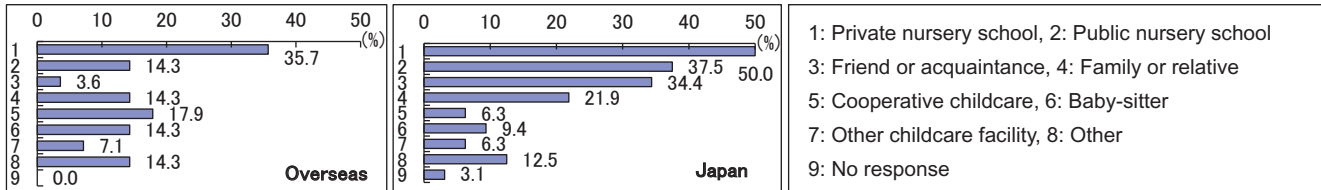
**(4) About domestic chores, child raising and elderly care**

- With regard to the question about who mainly does domestic chores, the answer of “You” (by yourself) was chosen by about 70% of respondents in Japan, and by more than 40% of respondents in overseas. However, the percentage of respondents taking care of domestic cores with their partners was higher in overseas. “Housekeeping agency” was not used in Japan, but some of respondents utilized the service in overseas.
- Regarding “Child Raising,” 80% of the entire respondents used public/private nursery schools. In overseas, a wide variety of nursery schools were accepted. In Japan, about 40% of respondents answered that they used public nursery schools. This rate was higher than that of overseas. With regard to the question of “Could you manage child care and your work at the same time,” about 80% of respondents answered as “Yes” or “Yes but reduced working hours.” The case of “Quite a job” could not be seen in Japan.
- Regarding elderly cares, the ratio of respondents who answered “yes” reached to more than 60% in Japan, and 40% in overseas. In Japan, most respondents used elderly facilities, but in overseas, many respondents took care of elder persons at their home with assistance from families, etc.
- Regarding “impact on works by child raising or elderly cares,” the number of respondents who chose “positive” was larger in Japan, compared with overseas.

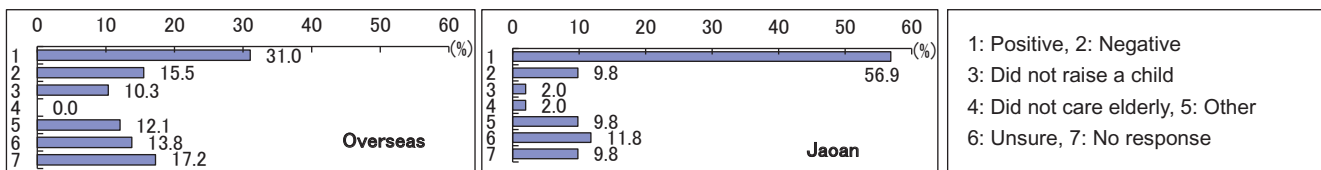
**h. Who mainly does domestic chores?**



**i. How did you nurse your child/children?**



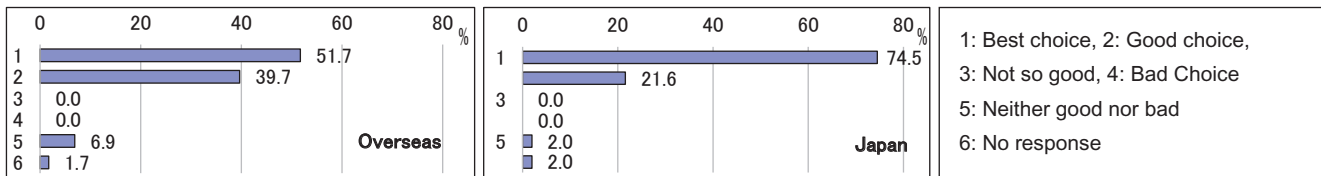
**j. What kind of impact does/did child raising or elderly care bring on your work?**



**(5) Self-evaluation to select jobs in the architectural field**

The ratio of respondents who chose “Best choice” or “Good choice” reached to more than 90%; “Best choice” was chosen by more than 70% of Japanese and 50% of overseas respondents. There were no respondents who answered as “Not so good” or “Bad choice.”

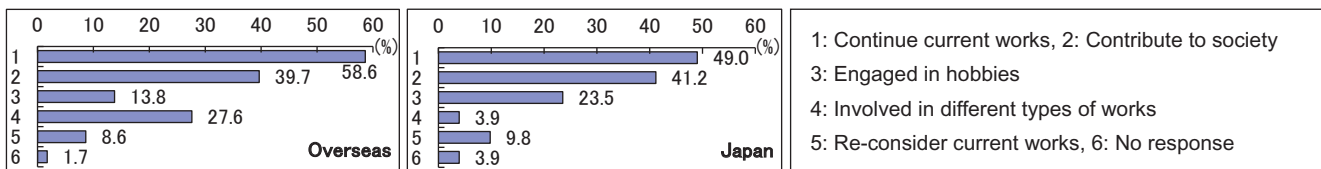
**k. What do you think about your working choice of the architectural field?**



**(6) About your future**

The most common response was “Continue current works” (chosen by more than half of respondents), and “Contribute to society” was followed. The ratio of respondents who chose “Involved in different types of works” was almost 30% in overseas, but few people thought that in Japan.

**l. How do you prospect your future works and activities?**



This survey shows that over 70% of overall 109 respondents were engaged in works of the architectural field by their own decisions. Also, it is identified that especially in overseas, women entered into the architecture field earlier, as indicated in the example where both of a mother and a daughter were involved in the architecture field, etc. In addition, we have recognized that more than 50% of respondents could appropriately manage both of their jobs and child raising or elderly cares, and over 90% of respondents thought that their choice of the architectural field was a right choice, and more than 50% of respondents felt to continue their current jobs.

We have convinced that the growth of the number of women engineers in the architectural field will be able to emphasize the creativity aiming at better living circumstances and more comfortable urban environments. Then, concerning working conditions surrounding women engineers, further improvement of the quality is strongly expected in the architectural field.

(TK)

東日本大震災と津波、原発災害から5年と4ヶ月余、日本列島の災害をここには書ききれないが今回は、熊本大地震からのレポートを同時掲載する。UIFA JAPONは中越は法末に入って10年、今も続く交流。継続。これは大事だ。忘れないことだ。現場の問題を知ることだ。そして連携して必要な解決策を見いだそう。一人ひとりの力は微々たる物だが、人の関係性、地域から発生する真に必要なものを見いだそう。(渡邊喜代美)

Five years and 4 months after the Tohoku Earthquake and tsunami, it is difficult to provide coverage of every disaster in Japan, but this time we have reports about the Kumamoto earthquakes. UIFA Japon members are still supporting Hossue after 9 years. These continuous exchanges are the most important way to help find solutions along with those affected. Only by working closely together, can we find out what is really needed. (WATANABE Kiyomi)(KS)

岩泉町被災地支援のこれまでとこれから 松川 淳子  
Our Continuing Support For IWAIZUMI  
MATSUKAWA Junko

岩泉町小本地区への支援は「どこでもカフェ」から始まった。すでに東日本大震災の被災地のいくつかでは、仮設住宅でカフェを開設する活動が始まっていたが、中越地震の被災地法末でのカフェの経験を踏まえるとともに、女性建築家の集まりである私たちの特徴を生かしたいと知恵を絞った。メニュー、お茶を飲みながらの傾聴、支援物資の提供、室礼の工夫、余裕のあるときは和服を着るなど、空間や雰囲気づくりにも凝った。カフェは大繁盛で被災地の人々の絆を深めることができたと思う。準備、片づけも出来るだけ地元の人々と一緒にやるように心掛け、この片付けのなかで、住み手の一人の「厚意をもらうことばかりに慣れてはいけない、自分たちもなにか出来ることがないか…」という言葉から始まったのが「だれでもフォトグラファ」で、復興する街の姿を自らの手で記録しようというものである。2011年11月から始まったこのプロジェクトは、合評会、撮影会、毎年3.11の展覧会などをやりながら、5年継続することができた。フォトグラファたちの写真の腕が上がったのはもちろんだが、彼らの復興への意欲を奮い立たせ、彼らがふるさと岩泉の人や自然に対しての誇りを再認識できたのも大事なことだった。被災から5年、カフェもフォトグラファも自主グループが産声をあげたのは、予想以上の大成果だといえよう。私たちの支援も新段階「地元の方たちの活動を支援する」形を追求していくことになる。

UIFA Japon members have continued to support Iwaizumi since the Tohoku Earthquake, with such activities as the “Do-ko-de-mo Café,” opening cafés everywhere in the disaster area, and “Da-re-de-mo Photographer!” for which locals all became photographers. Now, 5 years have passed and people in Iwaizumi have begun to stand on their own again. Through these activities, we contributed to the recovery of their community and the acceleration of the town’s reconstruction after the disasters. Our support has produced fruitful results by establishing groups that can now manage these activities by themselves. Thus, UIFA Japon has reached the next stage in seeking new ways to developing this type of self-standing movement. (KS)



2016年3月岩泉・小本でのどこでもカフェ+だれでもフォトグラファ展示

熊本地震レポート（熊本地震から3か月） 柏原 雪子  
Report from Kumamoto Earthquake Disaster Area After  
3 months  
KASHIWABARA Yukiko

7月16日（土）夕方南阿蘇入り

阿蘇大橋の崩落、俵山トンネルの不通により熊本市内から南阿蘇へのルートは迂回を余儀なくされ、1時間は余計にかかる。ミルクロードから赤水入りし、友人の別荘の被害状況を確認、雨漏りしている屋根、軒天、浮いた床など最小限の負担での修復計画をたてる。赤水から南阿蘇へは通常15分の距離だが、道路状況は厳しく、あちこちに陥没・崩れが見られる。応急処置され通れるが片側通行のところもある。途中ペンションメルヘン村の被害は大きく、地震時に崖崩れが発生し、宙ぶらりんの建物は撤去されていたが、崖の上に辛うじて立っているペンションも営業できる状況ではない。不通になった南阿蘇鉄道長陽駅を右に見て踏切を渡ると、レールは錆びて雑草に覆われている。振り返ると五岳に並ぶ夜峰山はかつて、緑色のピロードのような美しい山肌だったが、地震で滑り落ちた土色の割れ目が痛々しい。カルデラの中の村々は田植えが終わり、順調に成長しつつある稲は美しい緑を一面に輝かせている。ここを見る限り地震があったとは思えぬいつもの長閑な風景である。が田に水を張れない地域もあり、農地被害も住宅被害も様々である。阿蘇大橋は7月5日国土交通省で架け替え位置の決定がなされ、建設に向け進み始めるようだ。仮設住宅については、入居が始まり8月末には全員入居可能となる見込みだ。俵山トンネル付近には地震後の大雨でさらに新たな山崩れが発生しているのも心配だ。

I arrived in Minamiaso, Kumamoto on the evening of July 16. The Aso Ohashi Bridge collapsed, and Tawarayama Tunnel access was interrupted. It took more than hour to get there from the center of Kumamoto. I stopped at Akamizu, checked the damage to my friend’s second home, and made a repair plan. Road collapses were everywhere. At the village of lodges in Minamiaso, there is a building barely standing on top of a cliff affected by large-scale landslides. Railroad tracks have become rusty and covered with weeds. Mt. Yominesan used to have a beautiful green velvet surface, but there are now painful brown cracks. Villages in the caldera have finished rice-planting, and the growing plants create a beautiful shiny green landscape as usual. But there is also a region that still can’t get water flowing to the rice fields.

The reconstruction site of the Aso Ohashi Bridge has been determined. Temporary housing is expected to be available for all evacuees at the end of August. However, I am still worrying about a landslide near the Tawarayama Tunnel after long days of rain. (KS)



南阿蘇村のペンション村

UIFA JAPON 事務局

〒102-0083

東京都千代田区麹町 2-5-4

第2 押田ビル (株)生活構造研究所内

Phone: 03-5275-7861 Fax: 03-5275-7866

E-mail: uifa@liql.co.jp

URL: http://uifa-japon.com

発行 2016年8月25日

THE SECRETARIAT OF UIFA JAPON

c/o LABORATORY FOR INNOVATORS  
OF QUANTITY OF LIFE  
DAINI-OSHIDA BLDG.  
2-5-4, KOUJIMACHI,CHIYODA-KU  
TOKYO, JAPAN 〒102-0083

PHONE :+81-3-5275-7861

FAX :+81-3-5275-7866

URL :http://uifa-japon.com

## 熊本・大分地震の仮設住宅建設

安武 敦子

Construction of Temporary Housing After the  
Kumamoto Earthquakes

YASUTAKE Atsuko

被災後、これまでの地震の経験から、農村部では敷地内に戸建仮設住宅ができないか考えた。生業の継続や再建の点から有効である。各地の友人らに話すと、トレーラーハウスはどうかとか、納屋を利用した庭先仮設住宅を提案できるという人もいた。どこかにニーズがあれば実現できるとの思いで役所や協会に連絡をしたものの、新たな選択肢の対応をする人や時間がない、発注を受けて建てるので、提案的なことは困難との回答であった。たくさんの方の思いを現地に繋げないうちに仮設住宅は徐々に建設された。

しかし実際の仮設住宅は、アートポリスの素地のある熊本県では、隣棟間隔を広げたり、木製のデッキを設えたり、庇のある路地空間を作ったりと様々な工夫をしている。集会所「みんなの家」は居住者の意見を取り入れながら建とうとしている。さらに仮設住宅居住の建築的な支援として、九州の建築系大学でKASEI(加勢)プロジェクトが7月にスタートした。次のステップでの貢献を考えていきたい。

After the earthquakes in Kumamoto and Oita in April, I was considering helping people build temporary housing on their own land, especially in rural areas. This is effective for continuing or reconstructing their livelihoods. Talking to my friends around the country, I heard ideas like trailer homes, or temporary housing in barns, but these were not possible.

In Kumamoto, which has projects like "Artpolis" (cultural buildings), they have built temporary housing in a variety of ways, like in between neighboring houses, or installing wooden decks. Meeting places known as "everyone's home" will be built based on the opinions of residents. As further support,



KASEIは仮設住宅団地の豊かな居住環境形成を支援  
(KASEI概要説明資料より)

architecture-focused universities in Kyushu Prefecture started a Kasei ("assistance") project in July. We are considering additional contributions as the next step. (KS)

## 被災地通信 (14)

## 東日本大震災後5年にして思う

岩井 紘子

## Thoughts on the Tohoku Earthquake After 5 Years IWAI Hiroko

余震と本震の順すらの既成概念を覆す4月の熊本地震。想定外の被災生活を余儀なくされた現地の方々は今どれほど過酷な状況に置かれておられることか。深刻な被害が広がる報道を目前に、5年前にも東日本震災を経験した島国日本のこの先を憂う。

祖母を奪った昭和8年の三陸沖津波、昭和53年宮城県沖地震では事務所兼自宅が滅茶苦茶に、そしてこの世のものとは思えない5年前の東日本大震災の光景。その度に復興の名の下、被災地民の想いに関係無い画一的土木施策が押し進められる。しかし被害は防げてこなかった。今回も5年を経て果てることなく続く防潮堤、嵩上げ工事等、無駄無益の最たる施策に思える。再び次なる災害がすぐにも襲来するかも知れないのに。長中期を見据えて猶、現在の状況に見合った支援策がスピーディーに実行されてこそ、民間の自力再建力も発揮されよう。5年とは災害施策の在り様の抜本的な見直しの時期でなければならない。

My endless worry for this land, especially in Kumamoto, where the first quake was less damaging than the "aftershock" that followed, is ongoing. I feel great sympathy for those facing the tough situation now in Kumamoto.

I experienced serious earthquakes first in 1923, in which my grandmother was taken, and in 1978, when my office and house were crushed. Then there was the Tohoku quake and tsunami in 2011, with unforgettable scenes, each time resulting in huge civil engineering measures. But these were no use. The solution to elevate the land or build long and high embankments looks like a waste of money. A long-term vision and speedy support for current needs are the only way that local people can recover. Now is the time, 5 years after the Tohoku Earthquake, to review these drastic policies. (KS)



神戸「希望の灯り」から陸前高田市への分灯

## ■役員会報告

2015年度第6回3月25日 第24回UIFA・JAPON総会準備 6月18日開催決定 記念講演会準備 役員交代について「再アンケート調査その後」をNL英文併記号に掲載検討 NL103号発刊 NL広報用配布先検討

2016年度第1回5月13日 第24回UIFA・JAPON総会・記念講演会斎藤公男氏「新しい建築のみかた」準備 総会配付資料検討 第3回大船渡

2016年度第2回7月28日 総会報告・総括 総務引継事項の確認 NL104号8/25発行予定 アンケート調査結果の海外送付について 第65

回海外交流の会伊礼智宏説明 UIFA JAPON創立25周年記念行事検討 熊本義捐金送付先の検討 この指とまれ in 名古屋案検討

## ■編集後記

この夏は断捨離するぞ！（薄井）あまり編集長らしい役に立たずすみません（宮本）ボルトガル旅 再びいつか 心を残し（井出）最先端のUIFA JAPONのメンバーが志し高く輝けずして！もったいない！この社会環境は変だ！（渡邊）水辺、水辺、水辺漬けの夏休みでした（須永）アガパンサスが咲くと暑い夏も涼やかに感じます（飯田）よりいきいきと働き続けられる社会が、拡がっていきますように（牛山）見ない振りて来たけれど、ようやく重い腰を上げて、庭の花用に日差しよけのシェードを張るだけでこちらがバテる猛暑日（神村）いつかこのNLでフランスの子育て支援の充実を知った。建築士であることに矛盾しない女性の生き方を守ろう（中野）英文は（KS）がカレン・セバンス監訳、（TK）が高柳慶子訳。English: (KS): translation supervised by Karen Severns. (TK): translation of TAKAYANAGI Keiko.